



伏見町長は此結果を何と見る

向後の合戦が見もの 平 町役場派と非役場派

今春以来負け續けの理事者組
伏見町長は此結果を何と見る

平町第三小學校に於ける正無記名投票による勝敗を想
門通路の開設は遂に直道派勝つれば
に勝利された、案の提出は
理事者の権利に屬するので
右に關する正式の町會が何
時召集されることか

僅か一票の差に左右
された前回の敗軍が勝利を
語る其一票の微妙な動きが
原案支持の役場派をして再
び如何なる策動を畫かしめ
ずとも限らず成ゆきを

興味視 されてゐるが
本春以来役場對否役場派に
間髪を容れず繰返して而かも
結果の多くは役場派に失敗
を續けてゐる悲惨な過去を
摘記すれば本年二月豫算町
會に於ける

助役増 俸(月二十圓)
問題の如き時適々経費節約
の爲め學級整理を行ひ町議
の日常を削減し細給なる小
使までを減首せる折柄發案
者の

立場に あるものが自
己の俸給を増さんとするこ
との非を鳴らされ兩派の間
に論議があつた可否決定を

理事者 側は戦利あら
ざる所以のものは小心なる
伏見町長が二、三の策士に
誤られて兎角提案に無理を
存し強へて同意を求めんと
する爲に吏員の採用或は

失面目の終りを告げ

第三回戦は工費三十三萬五
千圓を計上する水道擴張の
豫算削減案で佐々木龍若、
鈴木光吉氏其他に反對の口
吻をもちられたるも結局二
十六萬圓とする大斧鑿に

成功を 唱ひられ次へ
増修費成佐々木龍若、高
橋龜松、石山治三郎、國
府田直良、萩原義雄、吉
田五平、吉村安次郎、吉
田寅之助、荒川淺次郎、
坂本隆藏、猪狩庄平、櫻
井清、

同反對井上茂作、關内正
一、馬目武之助、緑川喜
三郎、根本品藏、鈴木光
吉、荒川恒次郎、齋藤敏
實、花澤克五、青沼録
太郎、野崎滿藏、大森勇
馬目雅司、武田元之助、
柳下元吉、永山富廣、佐
藤岩次郎、

以上十七對十二を以て原案
が敗れた蓋し最近同町會に
紛争の未現はれて來る無記
名投票なるものは理事者の
發明に係る其頃からのもの
で之れを第一

回戦として第二回戦
なるものは請求町會であつ
た、右に對しては三益亭を
以て役場派の代表として

決議されたものを
常次郎氏の長男一雄氏が祖
先の徳を後世に遺したい一
念から既に高木某氏の功勞
碑あるを見て住職兵衛下海
庭前に入れば絶好の副食物なり

入營軍人
送別會
平町に於て出席
六百余名の盛況

小作人を表彰 勿來町で

十五日優良
者卅九名に
石城郡勿來町に於ける地主
連に組織され小作者獎勵の
振興會では十五日午後一時
から同町青年會館に於て納
期品質其他に關する成績に
對し優良者表彰を行つた受
賞せるもの左記の如く式後
柴田郡農技手及び木名瀬平
級檢支所長から農業組織の
改善並に俵米改良に就き講
話があつて午後四時盛況裡
に散會した

▲一等赤津要人(窪田)二
等荒井米太郎(酒井)小松
佐吉(窪田)窪田西藏(酒
井)石井速水(窪田)三
小松榮藏 北郷五世松
朝々は山くもりして菊の
と云ふやうに見て解すべき
句であります今日のきくと
は九月九日(陰曆)重陽の節
句に菊花を飾りき酒をく
んで長壽を希ふと云ふ故事
があるので重陽のきくと今
日の菊と云ふのでありまし
て此儀式に用いるきくと持
つて來る男もしかつめらし
く長壽をつけて來たと云ふ
のであります此長壽は
彼の殿中に用いた長ばかま
句であります此句は(けふ
の事でなく田舎者のむく
つけな奴が借り物でもある
かへつて持ち歩くなり。

川前村の
農産品評
石城郡川前村農會主催の農
産物品評會は十五日同村下
稲賣小學校に於て開催され
出品點數百五十點に對し
青山郡農技師の審査を以て
一等五 二等一〇 三等二
〇 四等二八合計六十三點
を撰別振賞當日午後二時郡
農會長より褒賞授與をした

併句
籬下群芳
満喜莊主人
夕飯や醬油かけても喜久
の花 一茶

買受け 同志に語つて
建碑工事に着手したことか
ら檀徒内の反感を買つたも
のであるが寺院境内地使用
の

寺院内の建碑から
金壽院の檀徒騒ぐ
鈴木元村長の功勞碑を立てた
い者と立てさせたくない間に

感心な海兵
入團以來病母
と病弟に送金

北郷房吉 藤田嘉一(以
上窪田) 佐藤五左衛門
蛭田龜三郎 荒川政重
荒川未吉(以上酒井)四等
山本萬吉 荒川政夫(以
上酒井) 齋藤泰 小林三
男作 青天目仲吉(以上
窪田) 五等皆川庄之進外
廿名

箕輪消防檢閱
石城郡箕輪消防非常召集
は十六日午前五時同村高野
小學校に於て執行平署から
若林警部補出張器械器具
他の檢閲あつたが百余名の
組員に七名の欠席のみで頗
る好成绩であつた

入營軍人
送別會
平町に於て出席
六百余名の盛況

川前村の
農産品評
石城郡川前村農會主催の農
産物品評會は十五日同村下
稲賣小學校に於て開催され
出品點數百五十點に對し
青山郡農技師の審査を以て
一等五 二等一〇 三等二
〇 四等二八合計六十三點
を撰別振賞當日午後二時郡
農會長より褒賞授與をした

感心な海兵
入團以來病母
と病弟に送金
平町字紺屋町四八太田三二
(三三)は大正十五年の適齡で
横須賀海兵團に入り目下軍
艦青島に乘組む主計兵であ
るが郷里に残る母トミが病
中である上に弟正雄も脊髄
病に罹つてゐる家計難に對
し入團以來毎月五圓ツ、本
年一月からは十圓ツ、を送
金し家計を助けてゐるので
近隣の人々から賞め者にな
つてゐる

畜産方面

羊飼育法(五)

毛用と肉用

種牡とする外の仔牡は二週間の時、去勢断尾(截耳)を行ふ、種羊は離乳を十六週間目位とした方がよい、生後五ヶ月位の仔羊は体最十貫には磷酸も石灰も五乃至八分の蓋積があるから二分の骨粉磷酸石灰を與へる、他の飼料中にそれ等の成分が不足しなかつたら別に給するに及ばぬ、水分は早過ぎぬ様に氣をつける、根菜紙滓は副食の程度とし断乳前後は牧草燕麥を給し○豆や油粕の粉砕したものを補食させる。

飼育

種羊を飼育するには放牧がよい氣候の暖かき牧草が豊富であれば年中放牧するが普通は春から秋の暖かい間に放牧し冬は舍飼をする、種羊に適する牧草はチモシ、レッドトップ、チチゴツナギ、オルチャードグラ、ス、ミヤコグサ、ウマコヤシ、クサフジ、ツルフジバカマ、ヤマハギ、ハマエンドウ、ツメクサ、ヤハズハギ等がある、牧草がなければあせ道の野草や原野の雜草を利用する。冬期舍飼では乾草と稈程とが主食物で、毎日又は時々玉蜀黍、燕麥、穀、大豆根株等を補ふ、假りに夏季

生草を成羊一頭二日に一貫乃至一貫五百(これに穀類一合五勺と大豆粕十勺)か原野の乾草であれば六百(これに穀類二合と大豆粕十五勺)とする、雌羊や母羊は生草とか乾草は普通と同量でよく、ただ穀類か穀と大豆粕を常より二分一量位づつ増飼する、仔羊は夏に生草七百乃至一貫目、穀類一合五勺、大豆粕十勺を、冬には上等乾草三乃至四百、穀類一合五勺大豆粕十勺にする。

看護派の求め
婦 看護婦會
 電話三〇七番

恐怖時代の

動脈硬化症新藥
 豫防及治療

アイヨール錠

試用二圓
 中瓶六圓
 大瓶廿圓

發賣以來

白熱的に
 歡迎せらる

特約店

山野邊藥局
 平町五丁目



秋とサロン
 サロンの黒ビール
 天高く 氣朗かに
 美味芳醇の 黒ビールを召せ

玉屋洋品店
 平町四丁目 電話六五六番

味の正宗
 罐詰鯉節
 電話 醸造部 二七番
 営業部 一〇番

山崎會社
 合名會社

品質の位本
 御進物には 商品切手

味噌醬油
 味の正宗
 罐詰鯉節

電話 醸造部 二七番
 営業部 一〇番

山崎會社
 合名會社

入院應需 自炊の便あり
明雲堂眼科醫院
 平町前 電話六六九番

諸君の病を癒す
安流丸
 特約店 山野邊藥局

外科、小兒科
 外科、花柳病科
 耳鼻咽喉科
 レントゲン科

高久病院
 院長 醫學士 高久 忠

萩原齒科醫院
 萩原義雄
 平町南町
 電話二五九

◆ 需 應 院 入 ◆
院 醫 沼 藤
 番七〇五話電

ガソリン モビール油 日本石油 株式會社 特約販賣

油問屋 關内商店

支店 郡山市 電話三二八番
 支店 郡前大通
 支店 茨城縣 關本駅前
 支店 茨城縣 湯島三番

出張所 小町四丁目
 出張所 郵便局前

薄い初霜おちて 吐く息も朝夕ほの白く 暖い冬物の御用意わ

堅實なる安價品

毛糸1オンス	12 錢
小供ジャケツ	30 錢
小供メリヤス	12 錢
大人メリヤス	45 錢
上等ゴットンシャツ	150 錢
純毛都	1圓より

買よき店
モリタヤ洋品店

品質の位本
油問屋
 品質の位本
 油問屋

支店 郡山市 電話三二八番
 支店 郡前大通
 支店 茨城縣 關本駅前
 支店 茨城縣 湯島三番

出張所 小町四丁目
 出張所 郵便局前

鶴印
 最特中製

舖子菓屋鶴大
 番九七話電 町平城磐